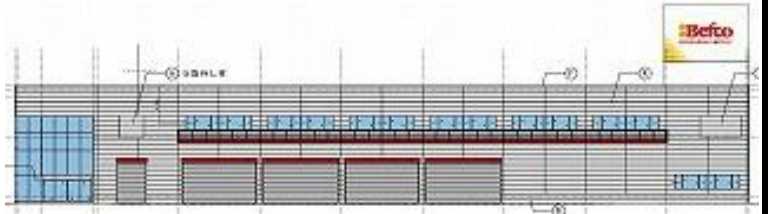


CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要	
建物名称	(仮称)栗山米菓新工場計画
建設地	北区 西名目所2607他63筆
用途地域	工業地域、22条区域
建物用途	工場
竣工年	2013年10月 予定
敷地面積	31,628.78 m ²
建築面積	9,044.93 m ²
延床面積	17,081.65 m ²
階数	地上 2F
構造	S造
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2013年6月10日



2. CASBEE新潟の評価結果		
	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{43}{38} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 2.9		バリアフリー	Q2.1.1.3	-
			維持管理	Q2.1.3	3.0
			更新性	Q2.3.3	2.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.1		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.0		建物の熱負荷抑制	LR1.1	-
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.0		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.0		生物環境の保全・創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 2.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	2.0

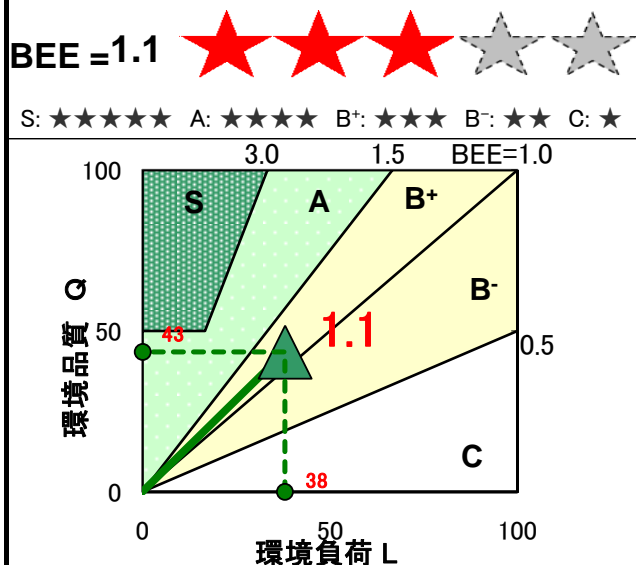
4. 新潟市の重点項目の配慮事項	
1.	維持管理は、標準的な配慮を行う。構造部材を痛めることなく修繕できる。
2.	基準法を満たす耐震性を有する。通信手段の多様化を図り、浸水の恐れがない。
3.	雨水流出抑制対策を行っていない。
4.	自然エネルギーの直接・変換利用は行っていない。
5.	節水コマを使用した水栓と省水型機器を採用している。リサイクル材の使用は無い。躯体と仕上げ材が容易に分別可能な再利用を考慮した循環型社会を目指している。
6.	外構緑化指数=18.14%,空地率=71.42%,水平投影面積率=3.36%,緑地・水面等面積率=12.95%,舗装面積率=42.77%
7.	建物高さ・壁面位置等において周囲への圧迫感の軽減を行っている。緑地により、良好な景観に配慮してい

CASBEE®新潟

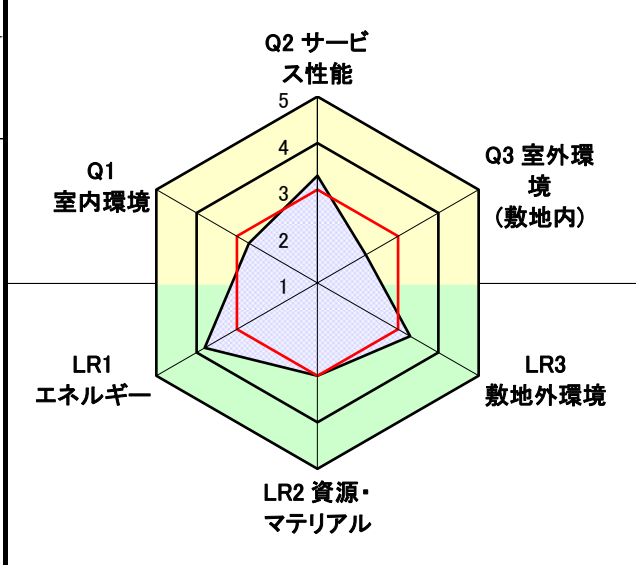
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

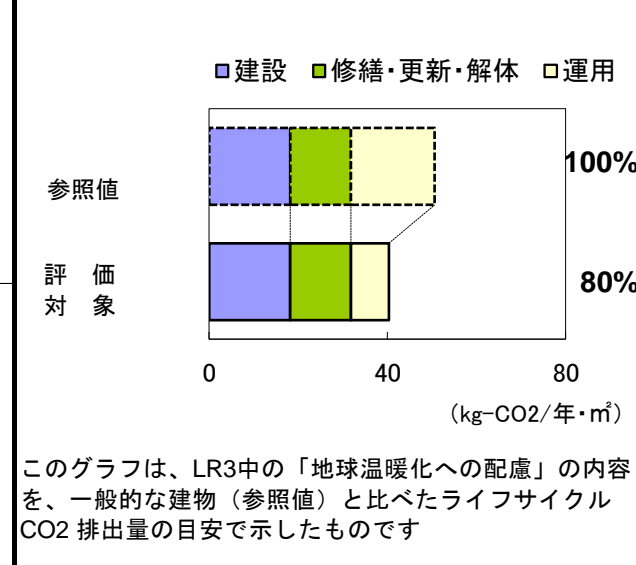
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



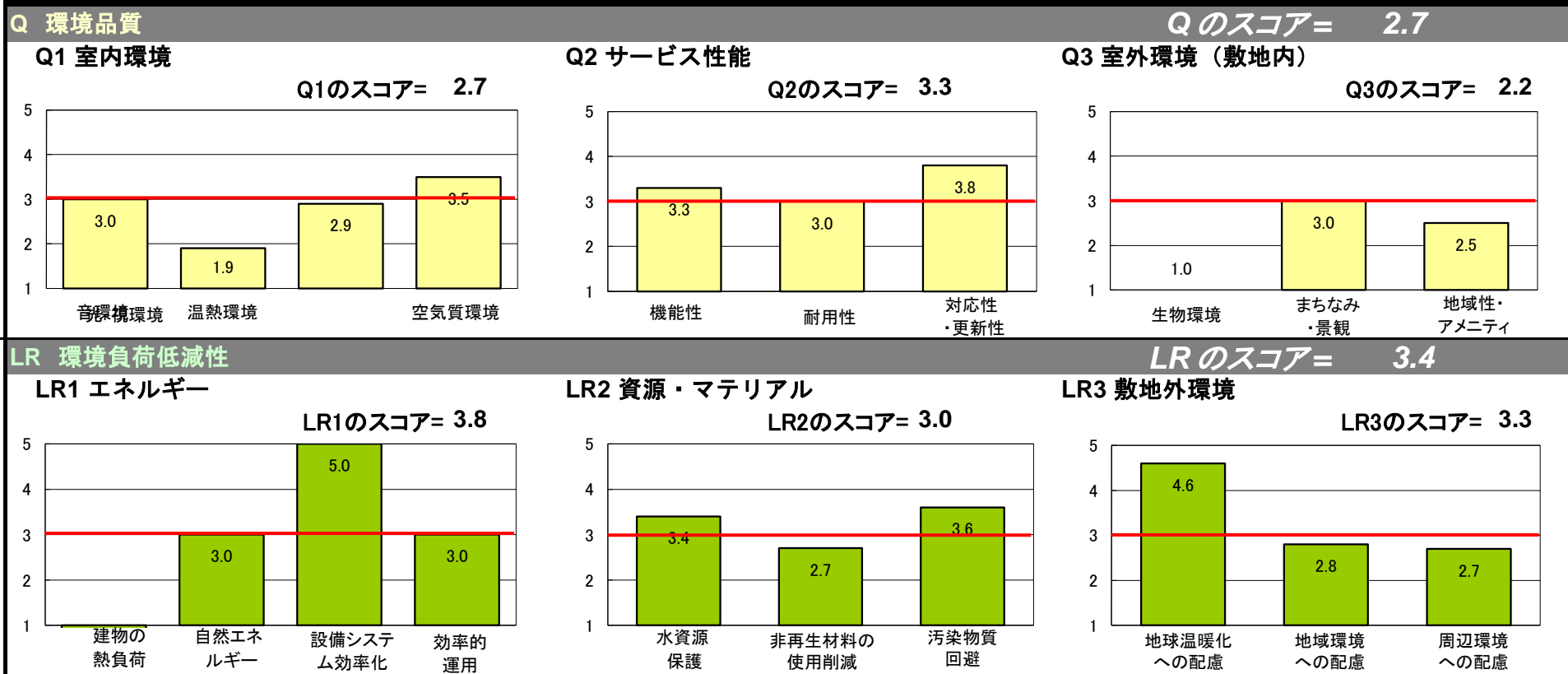
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 建物の長寿命化と省エネルギー対策、地球温暖化防止に配慮している。	その他
Q1 室内環境 ・遮音性能に配慮 ・適切な照度の確保 ・化学汚染物質を使用しない	Q2 サービス性能 ・執務空間の確保 ・リフレッシュスペースの活用 ・耐用年数の高い配管配線材料の採用 ・電気・通信などの浸水対策に配慮
LR1 エネルギー ・高効率照明器具の採用 ・エネルギー消費量の把握	LR2 資源・マテリアル ・節水への配慮 ・部材の再生利用への配慮 ・フロン・ハロンの回避
	Q3 室外環境(敷地内) ・緑化面積の確保 ・まちなみとの調和 ・防犯性の配慮
	LR3 敷地外環境 ・地球温暖化防止への配慮 ・大気汚染に配慮 ・交通負荷抑制に配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される